

日系アメリカ人シンポジウム(ロサンゼルス・サンフランシスコ)報告

【趣旨】

日米の多様な分野の第一線で活躍する日系アメリカ人、及び日系アメリカ人との関係の深い専門家をロサンゼルスおよびサンフランシスコにお招きして、ラウンドテーブル、公開シンポジウムの開催を通じ、ひろく米国日系人社会の現状についての理解促進および日米相互理解の増進と長期的な関係強化を図りました。



サンフランシスコでのシンポジウムより

ロサンゼルス シンポジウム

日時: 2006年7月21日(金) 11:30~13:30

会場: ロサンゼルス ミレニアム・ビルトモアホテル

共催: 国際交流基金日米センター、全米日系人博物館

テーマ: 「日米関係の新しい展望:ポップ・カルチャー、メディア及びスポーツ分野で」

スピーカー: 基調演説: 河野洋平議員

ノーマン・ミネタ前運輸長官

村瀬治夫経団連共同議長

オープニング: 河野太郎議員、スコット・ササ元 NBCTV 西海岸地域社長

パネル 堀淵清治(ビズ・メディア創設者)、井上史郎(ファミリーマート常務取締役)

ディスカッション: 役)、エリック・ナカムラ(ジャイアント・ロボット出版社社長)、小笠原有輝子(ジャパン・タイムズ社長)、ジャック・坂崎(ジャパン・スポーツ・マーケティング社社長)

観客数: 400名以上(事前登録者のみ)

概要: 前半の基調演説部分では、各講演者が、政界、財界における日系アメリカ人の役割について、歴史的観点から演説しました。後半部分では、若い世代の関心と関与を促すことを一つの目的として、ポップ・カルチャー、メディア及びスポーツの各界を牽引するパネリストがどのようにその分野をアメリカで開拓してきたかについて、非常に興味深いストーリーを披露しました。

サンフランシスコ シンポジウム

日時: 2006年7月24日(月) 14:00~16:00

会場: サン・フランシスコ ラディソン・ミヤコ・ホテル

共催: 国際交流基金日米センター、在サン・フランシスコ総領事館

テーマ: 日系人アイデンティティの変貌:日米それぞれの見方

スピーカー: グレン・フクシマ氏(日本エアバス社社長)

フィリップ・カン・ゴタンダ氏(劇作家)

水野剛也氏(東洋大学社会学部助教授)

モデレーター: マイケル・オミ氏(UCパークレー準教授)

観客数: 170名以上(事前登録者のみ)

概要: フクシマ氏の基調講演では、日系アメリカ人の多様性について、彼らの特異な歴史を紐解くところから始まり、世代を経るにつれ、日本から距離を置きつつある3世、4世の状況に言及しつつ、今後日系アメリカ人、日本人の双方が日米関係にどのように貢献できるかについて論を展開しました。”Don't be a bridge, be a player”とメッセージを投げ、主体的にアクターとして日米関係にコミットするべきとの考えを表明しました。これを受け、各パネリストは、自らのアイデンティティーに関わるエピソードや、日系アメリカ人のアイデンティティーをめぐる議論や社会状況に言及しました。